

# どのようにして 薬害は起こるのだろうか？

薬害が起こるたびに、再発を防止するための取り組みが行われてきました。それなのに、どうして薬害は繰り返されるのでしょうか？ここでは、代表的な薬害をピックアップして詳しく紹介します。薬害被害の実態や裁判などの事実を通して、その原因を考えてみましょう。

## サリドマイド

### 生まれてきた子どもに被害が及んだサリドマイド

サリドマイドとは、西ドイツで開発された鎮静・睡眠薬です。「妊婦や小児が安心して飲める安全無害な薬」をキャッチフレーズに、1958(昭和33)年には日本でも販売が開始されました。ところが、妊娠初期にサリドマイドを服用した女性から、手や足、耳、内臓などに障害のある子どもたちが次々と誕生したのです。世界のサリドマイド被害児の数は、8,000～12,000人といわれ、日本の被害者数は1,000～1,200人とされています。



### なぜ日本で被害が拡大したのか？

当時は、薬に副作用がある場合であっても、薬を使った本人ではなく、その子どもに被害を及ぼす可能性があると考えられることはありませんでした。このため、子どもに被害を及ぼす安全性の確認が適切になされず、被害が発生することになりました。また、1961年、西ドイツの小児科医・レント博士は、サリドマイドの危険性を全世界に訴えかけました(レント警告)。これを受けてヨーロッパ各地では直ちに薬の製造・販売が中止され、回収が行われました。しかし、日本で薬が販売中止・回収されたのはレント警告が出てから10ヶ月も経った後でした。

### サリドマイドが与えた社会への教訓

サリドマイドによる被害の発生を受けて、国は薬の使用を認めるときに妊娠動物による試験データの提出を義務づけるなど、薬の使用を認めるときの審査資料を厳格にする方針などを明らかにしました。また、副作用が発生した場合の情報を迅速に集め、素早く対応できるようにするため、製薬会社に対して副作用が発生したときに直ちに国に報告させる制度が設けられました。国際的にも、速やかな情報交換ができるよう、重大な副作用が起きて薬の流通を禁止した場合にWHO(世界保健機関)に通報する取り決めなどがなされました。

### コラム 再び使われるようになった薬「サリドマイド」の一事例 ～サリドマイドは危険？有益？～

サリドマイドは、恐ろしい薬害を起こした悪魔の薬として世界中で使用が禁じられ、薬として使われなくなりました。しかし、1998年、米国でハンセン病の治療に有効であることが確認され「薬」として復活を果たし、日本でも2008年に多発性骨髄腫の治療薬として使用することが認められました。

サリドマイドは危険なものではないのでしょうか。再び恐ろしい薬害を起こさないのでしょか。なぜ、もう一度使えるようになったのでしょうか。二度と同じような被害が繰り返されてはなりません。そのためにどのような取り組みがなされているのか調べてみましょう。

### こんな悲劇は自分たちだけでたくさんです サリドマイド薬害被害者 ●●●●さん

私たちは薬害により障害を持って生まれ、今も日々の生活に様々な不自由を感じながら生きています。この薬がなければ、私たちは被害を受けることはありませんでした。そのような恐ろしい薬を二度と使ってほしくありません。しかし、サリドマイドにより救われる人がいるなら、黙って使用されることを望みます。薬そのものが悪い訳ではなく、過去の出来事を知らず、十分な知識がないまま使用する側に責任があると思います。同じ過ちを繰り返さないために、ひとりでも多くの人に胸を開き、持ってもらいたい。義務教育で教え、すべての人が「自分の身にも起こり得る出来事」として認識してほしいと思います。こんな悲劇は自分たちだけでたくさんです。



## 学習のポイント

- point 1 なぜ薬害が起こったのか、みんなで話し合ってみよう。
- point 2 薬害が社会にどんな影響を与えたのか考えてみよう。
- point 3 薬害を起こした薬がどうしてもう一度使われるようになったのか考えてみよう。

## 薬害エイズ

### 血友病患者を襲った薬害エイズ

エイズ(AIDS:後天的免疫不全症候群)とは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染することで身体の免疫機能が著しく低下する病気です。薬害エイズでは、主に血友病(出血したとき、血液がとまらなくなる病気)の患者が出血を止めたり、出血するのを予防したりするための薬として用いられていた非加熱血液製剤(加熱して滅菌処理をしていない血液由来の薬)のなかにHIVが含まれていたために、血友病患者の約5,000名のうち1,400名強がHIVに感染したといわれています。

### 薬害エイズの被害

薬害エイズが起きた頃、社会ではエイズが正しく理解されていませんでした。そのため、入学や就職拒否、公衆浴場への入浴拒否、医療機関の受診拒否など、いわれなき偏見によって社会から排除され、被害者本人やその家族までもが猛烈な差別を受けました。薬害は健康被害のみならず、1人1人の平穏な生活にまで甚大な被害を及ぼすことがあるのです。



### 「誓いの碑」建立へ…

薬害エイズでも被害者から国や製薬企業に対して訴訟が提起されました。裁判所は製剤の危険性を認識できにもかかわらず、製薬企業は危険な非加熱血液製剤の販売を継続し、国は必要な情報提供などHIV感染を防止するために有効な対策を取らず、悲惨な被害拡大につながったとしました。国と製薬企業は深くお詫びをして和解、その後、血液製剤の安全性の強化等と内容とする法律の改正が行われました。また、二度と同じ過ちを繰り返さない思いから、職員の意識を高めるため、厚生労働省の敷地内に「誓いの碑」が建立されています。



▲鎮痛・慰霊のために平成11年8月24日に厚生労働省前に建立された「誓いの碑」

### 誓いの碑 文言

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに明記する

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件  
このような事件の発生を反省しこの碑を建立した  
平成11年8月 厚生省

### お父さんだけでなくお母さんもエイズなんだから 薬害エイズ被害者 ●●●●さん

「エイズなんだから。いつ死ぬか分からないんだから。お父さんだけでなくお母さんもエイズなんだから」。お母さんからそう言われた時のショックを、私は忘れられない。病院の授業で聞いた、あのエイズ、テレビでもよく見るエイズに、お父さんもお母さんもかかっているなんて…。お父さんが血友病だと知らされたのは、小学校3年か4年の頃。血友病がどんな病気なのか分かったのは、もっとあとで、たしか中学2年の保健の授業の時だった。先生がエイズの話をしていた「血友病の人は感染しやすい」と言ったのだ。エイズについて、今まで家で話をしたことがない。話をしてみよう、両親が感染しているということが本当になってしまいうんざりして怖い。まだ、信じたくないという気持ち。私は今バイトをしている。自分のものくらは親にねだらずに自分で買おうと思っただけ。でも最近バイトを変えた。新しいバイトのほうが、両親と接する時間が長くなるから。一緒にいられる時間をできるだけ増やしたいから。